

平等法アクセシビリティ3年計画 2023-2025

ねらいと目的

- 1) すべての生徒、職員、保護者、訪問者がカリキュラム、施設、情報にアクセスできるよう、改善を計画すること。
- 2) 誰も差別されないようにすること。

定義

この文書の中で「保護された特性を持つ人々」と記載されている場合、以下の特性を意味する：年齢、障がい、性別変更、結婚とシビルパートナーシップ、妊娠と出産、人種、宗教または信念、性別、性的指向。

障がいを持つ人(a)Pが身体的または精神的な障がいを持ち、(b)その障害がいPの通常の日常生活を営む能力に実質的かつ長期的な悪影響を及ぼす場合。(2010年平等法)

	活動内容と提案されたアクション	の影響はどのようなものだろうか？ その行動は監視されるのか？	誰が	いつ	成功基準
1	学校のウェブサイト、ニュースレター、職員会議を通じて「平等プラン」を公表し、推進する。全教職員が本校の「単一平等プラン」を認識している。職員は継続的に計画の策定に参加する。	ウェブサイトは定期的に更新される。 学期ごとのニュースレター 指定スタッフ会議	学校長指定スタッフ	各年度を通して - 1学期に1回	教職員は平等プランの原則を熟知しており、授業計画や教室の掲示物を作成する際に活用している。 保護者は平等計画を知っている。

2	<p>保護特性や障がい別に生徒の達成度を監視・分析し、生徒への追加サポートが必要なデータの傾向やパターンに基づいて行動する。成績不振の生徒には、学習面や個人的な幸福を向上させるための特別なサポートを提供する。</p>	<p>保護特性および障がい別に分析した達成度データ</p> <p>学生進捗会議で合意された支援への介入</p>	<p>学校長および教頭</p>	<p>各学期終了時</p>	<p>教員の評価／年次データの分析によると、さまざまなグループ間の格差はないか、平等なグループ間の格差は縮小している。</p>
---	--	---	-----------------	---------------	---

3	カリキュラムが、保護されるべき特性という観点から見た学校の多様性を反映し、若者が積極的に共感するロールモデルやヒーローを推進するようにする。 その結果、生徒たちは他者を理解し、尊重し、多様性を大切にできるようになる。	生徒の参加率、自信、達成度の向上 - 授業評価、アセスメント、進捗管理、児童生徒会、児童生徒アンケートを通じてモニタリングする。	教科担任・学級担任	各年度を通じ、毎年学習計画を見直し、リソースを監査する。	対象グループの参加と自信の顕著な向上
4	新しい職員を採用する際、妊娠に対する差別がないことを確認する（診察、病気、産休による欠勤）。	欠勤はすべて記録され、監視されます。このような事情による欠勤に対して、職員が罰則を受けることはありません。	学校長 事務局長	各年度を通じて - 1学期に1回	全職員が欠勤に関する手続きを認識している。
5	教室や廊下に、人種、性別、宗教、信条、LGBT、民族などの保護特性に関する多様性を促進するような表示をする。	生徒の参加、自信、積極的なアイデンティティの向上 - PSHEや他の教科（例）を通じてモニターする。 英語、国語、美術、DT）、児童生徒会、児童生徒アンケート、保護者アンケート	全教職員	各学期終了時	特に、学校コミュニティの多様性よりもはるかに広いコミュニティの多様性を反映させる。

6	例えば、選挙や共選による児童生徒会への参加、クラス集会、募金活動などを通して、すべての児童生徒が学校生活に積極的に貢献する機会を与えられるようにする。	児童生徒会代表を保護特性と障がい別に監視	全教員	各学期を通じて	児童生徒会メンバーの多様化
7	さまざまなコミュニティに対する児童生徒の認識と理解を深める	カリキュラムを充実させる活動の計画 学校全体のディスプレイの質を監視する 授業への参加（PSHE、美術、英語など）	教科担任	各学期を通じて	授業（PSHE、美術、英語など）や集会で、さまざまなコミュニティに対する意識が高まる。
8	当校は、すべての児童生徒が児童生徒会、クラス集会、責任ある立場、課外活動などに参加し、学校生活に積極的に貢献する機会を与えられるよう、包括的なアプローチを行っています。	さまざまなグループの児童生徒の課外活動やクラブの出席簿を監視し、データをまとめて校長と学校運営委員会に年次報告する。	教科担任 課外活動リーダー	年に2回	対象グループの参加と自信の顕著な向上
9	学校との交流に影響を及ぼす可能性のある障がいを持つ保護者を特定する。	保護者に説明の手紙を出し、情報を求める。	保護者	保護者が学校に申し込む場合	学校は、子どもの学校での進歩に関して、障がいのある保護者のニーズを理解し、それに応えることができる。

10	<p>視覚や聴覚に障がいを持つ生徒や職員、またはその他の特定された障がいを持つ生徒や職員のために、職場環境を評価し改善することで合理的な調整を行う。</p>	<p>例：学校周辺の標識の見直し、改装時に適切な色と照明計画を取り入れる。</p> <p>必要に応じて、教室に音響リードを付ける。</p> <p>視覚障害や失読症を持つ児童生徒に、日常業務用のラップトップコンピュータを提供する。</p>	<p>学校調査官に助言を求める</p>	<p>2学期</p>	<p>障がいのある児童生徒がすべての教育分野で自立して働けるようになる</p> <p>障がいを持つ職員が責任を果たす</p>
11	<p>スロープのある利用者が利用しやすい施設、障がい者用トイレを合理的に調整する。</p> <p>来校者のために合理的な調整を行い、緊急時を含め、校内にいる来校者をサポートするスタッフを配置する。</p> <p>障がい者のニーズに対応するため、必要に応じて教室の割り当てを変更することがあります。</p>	<p>すべての利用者がスロープを通過して1階にアクセスできることを確認する。</p> <p>火災が発生した場合、指名された人が障がい者の避難を支援する火災避難計画を作成する。</p>	<p>学校長、教頭、事務局長</p>	<p>障がい者支援施設はその機能をチェックすること</p>	<p>障がいのある児童生徒が学校での活動に支障をきたすことはない。</p> <p>障がいのある訪問者が、訪問目的を達成するのに困難はない。</p>

12	<p>保護特性および障がい別に SEN の出席と行動のデータを監視、分析し、児童生徒への追加サポートが必要な傾向やパターンがあれば対応する。出席率が悪かったり、遅刻したりする SEN の児童生徒には特別なサポートを提供する。</p> <p>いじめを含むインシデントの記録を監視し、平等グループの過多を示すデータの傾向に対処する。</p>	<p>保護特性および障がい別に分析された出席率および行動データ。</p> <p>生徒進捗会議で合意された支援への介入</p>	<p>学校長 学校運営委員会</p>	<p>各学期終了時</p>	<p>就学状況と行動の分析 / 除外データは、特定のグループが過剰に代表されていないことを示している。</p>
----	--	--	------------------------	---------------	---